

第11回岐阜県都市公園活性化懇談会 議事要旨

日 時：令和2年12月15日（火） 15：30～17：00

会 場：県庁 4階 特別会議室

1 事務局説明

- ・「今後の県営都市公園の在り方」及び「次期戦略におけるテーマ」について、事務局が説明

2 意見交換

○意見

- ・これからの県営都市公園は攻めていくタイミングであり、プロモーションの段階。魅力的な目的地ということを示すインバウンド対策と、交流、関係人口を増やすため、ライフスタイルを変えるような公園の使い方などを発信できるとよい。
- ・ライフスタイル、アクティビティの変容を柔軟に吸収できる公園にしてほしい。
- ・県営公園は東海環状自動車道と密接で、名古屋からとても近い。立地を活かさないもったいない。
- ・県営公園の役割として、マイクロツーリズムに注目すべき。交通アクセスが発達することで、物理的距離だけでなく、心理的距離も近くなってくる。
- ・東海環状自動車道が完成すると、身近な公園と考えるもらえるような工夫の仕方によって来園者数等はさらに伸びると思う。
- ・ポストコロナの時代で、コロナ以前の社会に戻すのではなく、新しい文明を作ることが世界的な潮流の一つであり、これが社会的大変容となる。グリーンリカバリーという言葉が注目されるようになり、公園が果たす役割も大きい。
- ・時代の流れの中で公園に求めるものが変わってきている。使ってもらってこそ価値が上がる。
- ・商業施設でもウォークアビリティがテーマとなっており、現状としてカフェ、体験施設が増え、商業空間が公園化してきている。
- ・遊具について、以前は受動型であったが、今は能動型になっている。能動型のものではないと、人に来てもらえない。その中で大事なものは、子供と大人が同時に体験でき、子供が有利であるという体験性。この体験性の仕組みを分析すると新しいものが生み出せるのではないかと思う。
- ・移動店舗について、公園は季節によって動線が変わるため、半分ぐらいを移動店舗とすると効率が良い。商業の仕組みと行動を合わせていくことを考えることが必要。
- ・岐阜県にこれから必要なのはM a a Sではないかと思う。これから目指すべきは交流ではなく対流であり、その時必要なのが、交通機関や施設の予約などをM a a Sによって一括して解決できること。その体系の中に公園が位置付けられると、これからの社会にも親和性が高くなる。
- ・次期戦略におけるテーマは、グリーンリカバリーやサステイナブルな視点を実践するため、岐阜のゲートウェイとなる公園運営を目指すという視点が必要なのではないか。

- ・今後、それぞれの公園の特性を分析し、どのような機能を付加し、魅力的につなぐかを整理すれば、インバウンドにも活用できる岐阜県らしい戦略が見えてくるのではないかと。
- ・最近、MaaSに取り組んでいる企業が多くなった。また、自動運転は、4公園のどこかで実証実験をできるとよい。
- ・公園への民間投資は難しいと考えていたが、活性化戦略でマイクロツーリズムやワーケーションといったコロナ社会にうってつけの施設として整備されてきており、これからの価値観の変化に対応できるのではないかと考えている。
- ・ヘルスプロモーションという観点で、公園を活用する視点はよい。
- ・イベントは人を集めるための一つの手段。そこでしかできないこと、公園自体の魅力を楽しむことを目的に人は集まる。
- ・今後インバウンドを目指すには公園の磨き上げも大切である。
- ・ペット連れの利用者が楽しめるような取組みがあるとよい。
- ・コロナ禍によるライフスタイルの変化で、子供がオープンスペースで遊べる公園には様々な可能性があると感じる。
- ・地域の趣味仲間が集う場が閉ざされたり、飲食事業者等の経営状況も厳しかったりという中で、サードプレイスとしての公園の在り方についても議論が必要である。
- ・商業と公園の親和性という観点で、公園の事業用空間としての可能性が広がっていることも、コロナ以降の事業の在り方となっていくように思う。
- ・親子を含めて外で遊んでもらうことが大事。家族とどのように絆を作るのかが非常に重要で、その意味でも公園は意義がある。
- ・公園の立て直しからスタートをした議論が順調に進んでおり、今後は県営都市公園の可能性をさらに広げていくというフェーズに変わっている。公園は可能性の宝庫である。
- ・with コロナの中で悪戦苦闘し乗り越えようとする中で、自ずと after コロナに臨める。その一つの切り口として都市公園を考えていくことが大事だと考える。
- ・都市公園はいずれも好調であると感じている。まさにコロナ禍にフィットした遊び場であり、お出かけ先である。
- ・仕事の在り方について、サテライトオフィスを安く手軽に、試験的に使ってみるキャンペーンもある。他にもサステナブルツーリズムという体験型観光も模索している。コロナ禍でのいろいろな現象をつないで都市公園の在り方を整理すると面白い。
- ・岐阜県全体を一つの公園と考え俯瞰図を見ると、欠けているのは川である。川を意識した全体としての公園についてさらに議論が進むとよい。